

公明党  
自由筆記回答

【1】

まもなく団塊世代が後期高齢者となり、やがて現役世代が急減する我が国の人口構造を踏まえると、医療保険制度および介護保険制度については、「現在の高齢者が安心できること」と「現役世代が納得と希望を持てると」の2つのバランスを図りつつ、両制度の持続可能性を確保していくことが重要と考えます。

また、医療ニーズを併せ持つ要介護者や認知症高齢者が増加するなど、医療と介護の連携の必要性はこれまで以上に高まって利用者の視点に立って切れ目ない医療・介護サービスを提供できる体制を構築していきます。

【2】

人口減少・少子高齢化が進む中で、国民皆保険を壁持するため、医療サービスの維持・向上を図りつつ、ニーズに応じた効率的な医療提供体制の整備を進めることが重要と考えます。

【3】

医療機関の集約化と重点化を行うとともに、病床の機能分化・連携、在宅医療の推進や介護分野との連携など、地域医療構想の実現に向けた取り組みを支援します。そのため、医師偏在対策を進めるとともに、タスクシフティング・シェアリングなど医師の働き方改革に向けた支援を進めます。

【4】

看取りを含めた人生最終段階における医療及びケアの体制整備は重要な課題であり、病気や要介護状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことを可能とする「地域包括ケアシステムの構築」が、その重要な役割を担うと考えます。

患者本人の気持ちや意思を十分に尊重した医療や介護を提供するため、相談体制の整備や情報提供などの支援を行い、関係機関との密接な連携を促進しつつ、多職種協働による「地域包括ケアシステムの構築」を急ぐべきと考えます。

【5】

医師の働き方改革に当たっては、過酷といわれる現在の働き方を改善するために、労働時間の短縮に徹底して取り組むとともに、地域の住民にとって必要な医療が維持・確保されることを基本として進める必要があります。

タスクシフティング・シェアリングや勤務間インターバルの導入に向けた支援を進めるとともに、AI・ICT等の技術を活用した効率化や勤務環境の改善を進めます。